

2840レディースセミナー「華のつどい」 報告

地区副幹事 新井 恒好

2009年4月5日（日）、日本近代産業発祥の地、富岡市の「富岡製糸場」を会場に、“2840レディースセミナー「華のつどい」”が開催された。これは地区内の女性ロータリアンが一堂に会し、交流を深めるとともに、ロータリーの奉仕理念についての本質的な理解を深め、「理念と実践」についての共通認識を醸成し、ロータリー活動の活性化を図る事を目的に企画された、松倉紘洋ガバナー肝いりの特別プログラムである。

前日、会場となる富岡製糸場では、世界遺産本登録へ向けて活動が続ける「富岡製糸場を愛する会」が中心となって「観桜会」が催され、大勢の市民や関係者で賑わっていた。

その余韻が残る中、前日夕刻から降り始めた雨もすっかり上がって敷地内の桜の老木群もこの日を待っていたかのように咲き誇り、まさに「華のつどい」にふさわしい環境が整った。しかも花冷えに震えるというおまけつきである。

この日の参加者は、地区内女性会員31名、松倉ガバナーご夫妻、地区研修委員会副委員長の曾我隆一パストガバナーご夫妻、そしてガバナー事務所スタッフである。

まずは富岡製糸場正門前でスタッフから入場券を受け取り、会場となる「ブリューナ館」へ、登録を済ませた後は会場内の一角に設けられた茶席にご案内し、富岡ロータリークラブ会員篠原昇君のご好意による「篠原宗邦社中」の皆さんの御点前で開会前のひと時を過ごして頂くという趣向である。

セミナーは定刻5分遅れの10時45分に開会された。挨拶に立った松倉ガバナーは、「これからのロータリーには女性の力が必要」と力説され、女性ロータリアンの皆さんにエールを送った。

最初の研修メニューは、第2750地区・東京銀座ロータリークラブの市川伊三夫パストガバナーを講師に迎えての講演会である。市川先生は「期待する女性ロータリアンの力」と題した約70分の講演で、女性の力がいかに偉大かという事を様々な事例を挙げてお話しされ、女性会員の活躍に期待を寄せられ、その重要性を示された。先生のユーモアあふれるお話に誘われて起きる笑い声は、会場の雰囲気をも和ませるとともに、花冷えの寒さをやわらげてくれたようだ。



子供達よりセミナー前の一腹



ガバナー挨拶



講師 市川伊三夫先生



女性会員の皆様

この日のサプライズメニューは、内容の公表をしていなかった昼食後の「お楽しみタイム」だ。昼食会場中央の即席ステージで、伊勢崎中央ロータリークラブ会員小田澄江君が主宰する「小田澄江フラメンコ舞踊教室」の皆さんが、生のギター演奏によって繰り広げた迫力満点の華麗な舞は、参加者の心を一つにし大いに盛り上がった。

お楽しみタイムの後は、世界遺産の暫定リストに掲載され、国の重要文化財に指定されている「富岡製糸場」の見学会である。見学会では、富岡製糸場研究の第一人者、富岡製糸場総合研究センター所長・今井幹夫先生の解説付きのご案内で、我々の先人が築き上げてきた偉業を実感できたものと思う。

今井幹夫先生には見学会に引き続き「富岡製糸場と女性たち」と題した約1時間の講演を頂いた。今井先生はご自身が研究された史実を基に、富岡製糸場創成期に関わった女性たちの役割や生き様を解りやすくお話しされ、近代産業の発展に女性の力が不可欠だった事をご教示された。ここでも女性の力の偉大さを思い知らされることとなった。

最初から最後までお付き合い頂いたお二人の講師先生も出席された閉会セレモニーでは、市川先生と同期にガバナーを務められた曾我パストガバナーから講評を頂き、村上明男地区幹事のお礼の言葉でプログラムを終了した。全員揃っての記念撮影を終えて解散したのは、予定時間を大幅に超過した15時30分頃であった。

今回のセミナーは、会場が国の重要文化財ということで様々な制約の中で開催された。火器の使用が禁止されているために、会場の暖房ができなかった事や暖かいものが提供できなかった事、また、化粧室などの設備が不十分な事、等々参加された皆様にご不便をお掛けしましたが、その分「記憶に残るセミナー」になったことと思います。

ご協力頂いた大勢の皆様にご心から感謝申し上げます。

“ありがとうございました”



お楽しみタイムの様子



講師 今井幹夫先生



富岡製糸場の歴史について聞き入る参加者の様子



曾我隆一パストガバナーによる講評



参加者全員で集合写真